

温泉の成分、禁忌症及び入浴上の注意

成分

1. 温泉名 長船温泉
2. 泉質 冷鉱泉
(低張性アルカリ性冷鉱泉)
3. 泉温 源泉 21.5°C
使用位置 21.5°C
(調査時における気温 22.5°C)
4. 温泉の成分

(本水1kgに含有する成分及び分量)

陽イオン	分量(mg)	陰イオン	分量(mg)
ナトリウムイオン Na ⁺	110.13	ふっ化物イオン F ⁻	8.68
カリウムイオン K ⁺	0.50	塩化物イオン Cl ⁻	180.22
マグネシウムイオン Mg ²⁺	<0.2	硫化水素イオン HS ⁻	0.40
カルシウムイオン Ca ²⁺	26.03	硫酸イオン SO ₄ ²⁻	3.10
アルミニウムイオン Al ³⁺	<0.1	炭酸水素イオン HCO ₃ ⁻	<0.1
鉄(Ⅱ)イオン Fe ²⁺	<0.05	炭酸イオン CO ₃ ²⁻	24.03
計	136.66	計	216.43

遊離成分

非遊離成分		
メタホウ酸 HBO ₂	---	mg
メタケイ酸 H ₂ SiO ₃	---	mg
計	---	mg

溶存物質(ガス状のものを除く) 0.35g/kg

溶存ガス成分		
遊離二酸化炭素(遊離炭酸) CO ₂	<0.1	mg
遊離硫化水素 H ₂ S	---	mg
計	---	mg

成分合計 0.35g/kg

その他微量成分 (単位:mg/kg)	
総ヒ素 As	0.005 未満
マンガン Mn	0.01 未満
銅 Cu	0.01 未満
鉛 Pb	0.01 未満
総水銀 Hg	0.0005 未満
総クロム Cr	0.03 未満
カドミウム Cd	0.005 未満
亜鉛 Zn	0.01 未満

禁忌症及び入浴上の注意

1. 浴用の禁忌症
一般的禁忌症
病気の活動期(特に熱のある時)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓病又は肺の病氣、むくみのあるような重い腎臓の病氣、消化管出血、目に見える出血のあるとき、慢性の病氣の急性増悪期。
泉質別禁忌症
該当項目なし
2. 浴用の適応症
一般的適応症と泉質的適応症
どちらにも、該当項目なし
3. 浴用の方法及び注意
(1)入浴前の注意
ア 食事前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
イ 過度の疲労時には身体を休めること。
ウ 運動後30分程度の間は、身体を休めること。
エ 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は、避けることが望ましいこと。
オ 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
カ 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ1杯程度の水分を補給しておくこと。
(2)入浴方法
ア 入浴温度
高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人または脳卒中を経験した人は、42°C以上の高温浴は避けること。
イ 入浴形態
心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
ウ 入浴回数
入浴開始後数日間は、1日当たり1~2回とし、慣れてきたら2~3回まで増やしてもよいこと。
エ 入浴時間
入浴温度により異なるが、1回あたり、初めは3~10分程度とし、慣れてきたら15~20分程度まで延長してもよいこと。
(3)入浴中の注意
ア 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
イ 浴槽から出るときは、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
ウ めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けをもとめつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。
(4)入浴後の注意
ア 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること。(但し、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)
イ 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。
(5)湯あたり
温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。
(6)その他
浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルを入れないこと。

分析年月日 平成28年11月11日

分析者 (公財)岡山県健康づくり財団
登録番号 岡山県自第1号

禁忌症確認年月日 平成29年 2月24日

確認者 岡山県備前保健所長